

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	20211	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	環境教育演習 [Seminar in Environmental Education]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750058	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	4年次
教員氏名	遠藤 晃			学位授与の方針 との関連			
授業概要	<p>新・学習指導要領は、ESDを一つの基盤として、議論が進められ策定に至った。学習指導要領から、最終的にESDという文言は消えたが、その理念や内容は確実に取り入れられ、ESDと学校教育の融合性は高い。</p> <p>本演習では、野外活動を通してさまざまな自然環境や環境教育実践に触れて、受講者自身が自然体験することを基礎とする。その上で、環境教育を生態学及びESDの視点から捉え、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、地域の環境問題の見聞を踏まえて、受講者自身が環境教育のプログラム立案をおこなう、環境教育の実践的な力を身につけることを目指す。本講義は、3年次開講の「環境教育論」の実践編である。</p>						
関連する科目	環境問題入門、環境教育論、環境問題演習						
授業の進め方と方法	はじめに、ESDと学校教育に関する理論や現状について学ぶ。その後は、フィールドワークの準備と実施、まとめを繰り返す。最終的にはプログラムを立案し、模擬的にプログラムを実践する。						
授業計画	<p>○1日目 第1回：自然に学ぶ意義：ESD(持続可能な発展のための教育)の視点に立った環境教育 第2回：学校教育における環境教育の現状と課題(ESDカレンダーと問題解決学習) 第3回：多様な生態系：河川生態系 第4回：フィールドワーク：河川の生き物(沖水川中流域) 第5回：フィールドワーク：河川のつくる景観(沖水川中流域?上流域)</p> <p>○2日目 第6回：多様な生態系：干潟生態系 第7回：フィールドワーク：干潟の生き物1(重富干潟) 第8回：フィールドワーク：干潟の生き物2(重富干潟) 第9回：フィールドワーク：干潟の景観と機能(重富干潟) 第10回：干潟生態系のまとめ</p> <p>○3日目 第11回：研究機関・展示施設等における環境教育の体験 第12回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案1 第13回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案2 第14回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案3 第15回：環境教育プログラムの実践</p>						
授業の到達目標	<p>学校教育・幼児教育のなかでESDの視点に立った環境教育に取り組む意義を理解し、現状把握と問題点の認識を図る。その上で、受講者自身が野外活動を体験し、地域の環境に関する生態学および科学的知見を蓄積し、その知見を活用した環境教育を立案、グループ学習を通して練り上げ、表現するまでのプロセスを経ることで、初等教育(幼稚園を含む)における環境教育の実践的な指導法を習得することを目標とする。</p>						
授業時間外の学修	<p>毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。</p>						
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。	評価方法	<p>演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。</p>				
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究最終報告所」(国立教育政策研究所・教育課程研究センター) ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター(東洋館出版社) ・「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」(「ESDでひらく未来」シリーズ)(学文社) ・「小学校学習指導要領解説 理科編」(文部科学省) 						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季集中講義で実施する。 ・天候等により講義内容が入れ替わること、変更になることがある。 						